

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛先) 京都府知事	2019年 7月29日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府南丹市八木町美里紫野1	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 雪印メグミルク株式会社 京都工場 工場長 大野 智
環境マネジメントシステムの名称	ISO 14001:2015 (BSIグループジャパン株式会社認証)
適用範囲	牛乳及び加工食品(ヨーグルト、クリーム、デザートなど)の生産
導入年月日	2007年 3月 19日 (2005年12月15日承認期間の変更)
認証番号	EMS99990
基本方針	別紙、環境方針参照
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	1、エネルギー原単位の削減 前年比1%削減 2、廃棄物再資源化率 100%維持 3、廃棄物発生率 前年比1%削減
目標を達成するための取組の内容	1、照明設備のLED化による電力削減 2、貫流ボイラ更新による燃料使用量の削減 3、炉筒煙管ボイラ送風ファン高効率モータ化 4、殺菌室給気ファン高効率モータ化
目標を達成するための取組の進捗状況	1、照明設備のLED化による電力削減 2、貫流ボイラ更新による燃料使用量の削減2019年度更新予定 3、炉筒煙管ボイラ送風ファン高効率モータ化更新完了 4、殺菌室給気ファン高効率モータ化更新実施完了
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	1、エネルギー原単位の削減 81.92kl/kl 前年比108.7%【未達成】 2、廃棄物再資源化率 100%維持【達成】 3、廃棄物発生率 前年比1%削減 前年比105.5%【未達成】 ※2018年度より新設ラインが稼働した。この製品はプラスチック原料から容器を成型すること、また、100gと小型製品のため他品種と比較し単位容量あたりの使用エネルギーが多く原単位の上昇要因となり原単位目標は未達成となった。廃棄物についても新設ラインの影響により発生率が上昇し目標未達成となった。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関係法規遵守状況は1年に1回確認を実施、環境内部、外部監査も定期的に実施されており関係行政からの指導等も発生していない
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	環境方針に則り、高効率のモーターへの更新、LED照明の更新等を実施し環境負荷の低減を図ったが、新設ラインの影響により原単位の削減、廃棄物量の削減目標は未達成となった。今後も省エネ設備への更新を計画的に実施していくことにより環境保全・省エネ活動に努めていく。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムの内容について第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。

別記  
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	2019年 7月 29 日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府南丹市八木町池上古里1-1	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 雪印メグミルク株式会社 京都工場 池上製造所 製造所長 木村 修

環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2015（BSIグループジャパン株式会社認証）
適用範囲	牛乳・飲料及び加工食品（ヨーグルト・クリーム・デザートなど）の生産
導入年月日	2007年3月19日（マルチサイト化による：初回2005年12月15日）
認証番号	EMS99990
基本方針	別紙環境方針参照
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	①エネルギー原単位の削減 今年度エネルギー原単位 46.59L/t以下 ②廃棄物量の削減 今年度廃棄物排出量 930.479t以下 ③リサイクル率の維持向上 今年度リサイクル率 100%（前年度以上維持）
目標を達成するための取組の内容	①エネルギー原単位の削減 蒸気配管保温による蒸気使用量削減 排水R-ボンプの曝気量見直しによる電力削減 ②廃棄物量の削減 切り替え時のミックス廃棄物の削減を実施し排水への流入負荷を減らすことで汚泥発生量を削減 ③リサイクル率の維持向上 廃棄物の分別によるリサイクルへの転換
目標を達成するための取組の進捗状況	①蒸気配管の未保温箇所における保温実施 前処理槽、曝気槽のDOに応じてボンプ曝気量の調整を実施 ②流入負荷の削減と共に、凝集剤注入量の基準化による汚泥含水率の向上を実施 ③廃棄物分別に関する教育を実施
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	①エネルギー原単位46.59L/t以下の目標値に対して47.52 L/t（未達成） ②廃棄物量削減の目標値930.479 t以下に対して903.312 t（達成） ③リサイクル率の向上目標値100%に対して100%（達成） 上記施策を含む様々な施策によりエネルギー使用量の削減を行ったが、災害の影響による生産量の大幅な減少、猛暑による冷却設備の電力量の増加により原単位は悪化。原単位目標は未達となった。廃棄製品の廃棄量は増加したが、流入負荷の削減や含水率の向上により脱水汚泥の排出量は減少。これにより廃棄物量の削減目標は達成できた。
事業活動に係る法令の遵守の状況	2018年7月に当事業所7t以上の設備の70t（R22）冷凍機から冷媒が大量漏洩した。 （漏洩量179.3kg、CO2換算324.53t-CO2）法定規制値以上の漏洩では無かったが、事態を重く受け止め、漏洩状況を京都府へ速やかに報告した。京都府からは「点検の強化」「不良部位の改修」「当社全事業所への共有化」についての助言を頂き実施をした。また、今回漏洩が生じた7t以上の設備および冷凍機については再発防止およびR22の使用撤廃を目的として2019年度に更新を行う。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	エネルギー原単位が目標未達であることを重く受け止め、例年通りの取組み方では改善できないことを認識し、季節変動、物量変動に応じた施策を立案し、確実に遂行していくこと。また、化学物質についても今までどおりの管理ではなく、法令遵守、フードディフェンスのいずれの面においても間違いのない管理方法を確立すること。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。